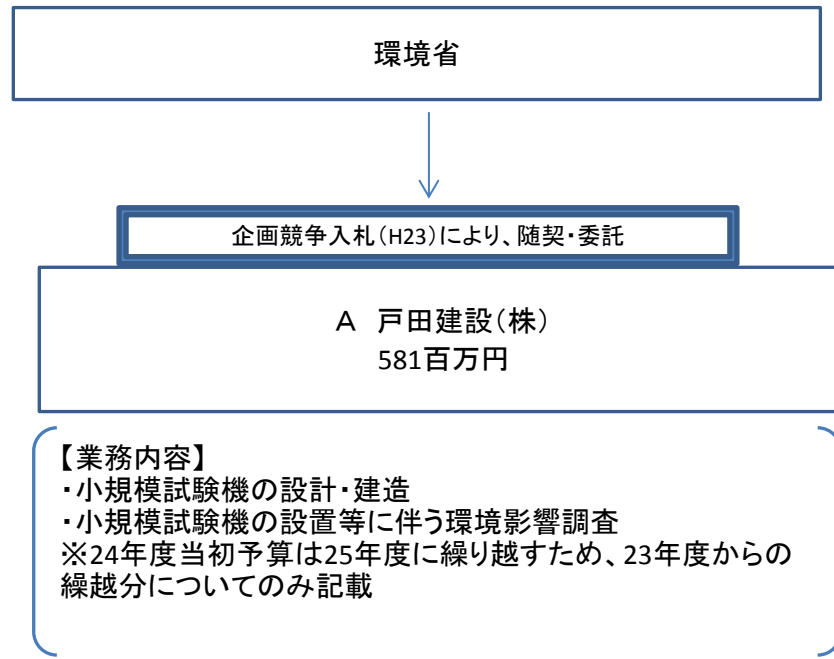


平成25年行政事業レビューシート (環境省)

事業名	洋上風力発電実証事業		担当部局庁	地球環境局		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度～平成27年度		担当課室	地球温暖化対策課		調整官 神谷洋一	
会計区分	エネルギー対策特別会計 (エネルギー需給勘定)		政策・施策名	1. 地球温暖化対策の推進 1-2 国内における温室効果ガスの排出抑制			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	特別会計に関する法律第85条第3項第1号ホ 特別会計に関する法律施行令第50条第7項第9号		関係する計画、通知等	エネルギー基本計画、 京都議定書目標達成計画			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	我が国は排他的経済水域第6位の海洋国であり、洋上には陸上に比べて大きな風力発電の導入ポテンシャルを有していること、さらに洋上は風速が強く、その変動が少ないため、安定的かつ効率的な発電が見込まれるといったことから、洋上風力発電は有望な再生可能エネルギーとしてその実用化が期待されている。このうち水深が深い海域に設置可能な浮体式洋上風力発電は、我が国海域に非常に大きなポテンシャルがある。 このため、本事業では、我が国初となるフルスケールの浮体式洋上風力発電の実証試験を実施し、実用化に向けて必要な知見を得ることを目的とする。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	長崎県五島市杵島沖において、平成24年度に、パイロットスケール(100kW)の小規模試験機を設置・運転した。平成25年度には、我が国初の2MWの風車を搭載したフルスケール実証機を設置・運転する実証事業を実施し、平成27年度以降の早期実用化に向けて必要な知見を得るとともに、台風への耐性、漁業者との調整、環境アセスメント手法の確立を行う。 具体的な年次計画は以下のとおり。 ○気象・海象・環境影響調査(平成23～27年度) ○試験機及び実証機の詳細設計・建造(平成23～25年度) ○試験機及び実証機の実海域設置・実証運転(平成24～27年度) ○事業性等の評価(平成27年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度要求	
		当初予算		582	3,048	1,600	1,369
		補正予算		-	-	-	
		繰越し等		△ 581	△ 2,467	3,048	
	計		1	581	4,648	1,369	
	執行額		1	581			
執行率(%)		100%	100%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	22年度	23年度	24年度	目標値 (32年度)
	浮体式洋上風力発電によるCO2の削減量	成果実績	t-CO2	-	0	0	1,450,000 (※洋上風力全体)
		達成度	%	-	0	0	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	22年度	23年度	24年度	25年度活動見込
	浮体式洋上風力発電の設備容量	活動実績 (当初見込み)	kW	-	0	100	-
					0	(100)	(2,000)
単位当たりコスト	- (円/ -)		算出根拠	実証事業であるため、現時点では算出が困難である。			
平成25・26年度予算内訳	費目	25年度当初予算	26年度要求	主な増減理由			
	二酸化炭素排出抑制対策事業等委託費	1,600	1,369	平成25年度事業において、実証機の設置作業が完了したため、平成26年度要求額は減			
計	1,600	1,369					

事業所管部局による点検						
	項目			評価	評価に関する説明	
国費投入の必要性	広く国民のニーズがあるか。国費を投入しなければ事業目的が達成できないのか。			○	我が国初の本格的な浮体式洋上風力発電の実証であり、民間が行うには事業リスクが大きすぎるため、国主導で実証する必要がある。	
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。			○		
	明確な政策目的(成果目標)の達成手段として位置付けられ、優先度の高い事業となっているか。			○		
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。			○	平成23年度は企画競争により委託先を選定しており、競争性が確保されている。	
	受益者との負担関係は妥当であるか。			—		
	単位当たりコストの水準は妥当か。			—		
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。			—		
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			○		
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)			—		
事業の有効性	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。			○	平成24年度には、パイロットスケール(100kW)の小規模試験機を設置・運転しており、データ収集等に十分に活用している。	
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。			○		
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。			○		
重複排除	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)			○	○浮体式洋上ウインドファーム実証研究事業:環境省事業では、台風への耐性、漁業者との調整、環境アセスメント手法の確立等を行い、それらの知見を経済産業省事業に提供し、大規模な風力発電のビジネスモデルの確立につなげることとしている。 ○浮体式洋上風力発電施設の安全性に関する研究開発:当該事業は研究開発であり、実証事業ではない。	
	事業番号	類似事業名	所管府省・部局名			
	0278	浮体式洋上ウインドファーム実証研究事業	経済産業省資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部			
432	浮体式洋上風力発電施設の安全性に関する研究開発	国土交通省海事局				
点検結果	平成24年度にパイロットスケール(100kW)の小規模試験機の設置・運転が開始されるなど、これまで概ね順調に事業が進められている。					
外部有識者の所見						
点検対象外						
行政事業レビュー推進チームの所見						
現状通り	引き続き効率的な執行に努めること。					
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況						
現状通り	引き続き効率的な執行に努める。					
備考						
関連する過去のレビューシートの事業番号						
平成22年	—	平成23年	新23-017	平成24年	309	

※平成24年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位：百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A.戸田建設株式会社			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
業務費	旅費、印刷製本費、通信運搬費、借料及び 損料、消耗品費、雑役務費、外注費、共同	502			
人件費		37			
消費税及び地 方消費税		28			
一般管理費		14			
計		581	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	戸田建設(株)	小規模試験機の建造・設置・運転、小規模試験機の設置・運転に伴う環境影響調査、実証機の詳細設計・建造	581	随意契約	—